

自己矛盾の朝日新聞

一面新聞

21年5月26日 朝日新聞社説(要旨)
夏の東京五輪 中止の決断を首相に求める

この夏に東京で五輪・パラリンピックを開くことが理にかなうとはとても思えない。突き進む政府、都、五輪関係者らに対する不信と反発は広がるばかりだ。

今夏の開催の中止を決断するよう菅首相に求める。誰もが安全・安心を確信できる状況にはほど遠い。残念ながらそれが現実ではないか。

人々が活動を制限され困難を強いられるなか、それでも五輪を開く意義はどこにあるのか。

五輪は政権を維持し、選挙に臨むための道具になりつつある。国民の声がどうあろうが、首相は開催する意向だと伝えられる。

そもそも五輪とは何か。社会に分断を残し、万人に祝福されない祭典を強行したとき、何を得て、何を失うのか首相はよくよく考えねばならない。

朝日新聞は社説(社の意見)で【東京五輪中止】を表明しといて、『スポンサー(オフィシャルパートナー)は続ける』や『朝日主催の夏の甲子園は開催する』は二重基準では？社として東京五輪反対表明したのだからスポンサー契約を打ち切りしグループ会社のテレビ朝日は五輪放送権返上が筋では？

21年5月26日 朝日新聞ホームページ
東京2020オフィシャルパートナーとして(要旨)

朝日新聞社は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナーです。

新型コロナウイルス感染の拡大により、大会の開催を懸念する声が広がるなど、さまざまな議論がなされる状況となっています。感染状況などを注視し、オフィシャルパートナーとしての活動を続けてまいります。

一方、2016年1月に大会組織委員会とオフィシャルパートナー契約を結んだことをお伝えした際、「オフィシャルパートナーとしての活動と言論機関としての報道は一線を画します」とお約束しました。朝日新聞が五輪に関わる事象を時々刻々、公正な視点で報じていくことに変わりありません。

社説などの言論は常に是々非々の立場を貫いています。今後も引き続き紙面や朝日新聞デジタルで、多角的な視点からの議論や提言に努めます。

令和3年
5月28日(金)

発行者
D A P P I



第178号



報道回想録

虎ノ門ニュース(2021年5月26日 DHCテレビ) 米韓会談は文在寅にとって米韓会談は失敗



5月26日に放送された虎ノ門ニュースに龍谷大学社会学部教授の李相哲氏が登場し『文大統領は史上最高の米韓会談と言ってるが、本当は失敗』と言及した。

李相哲氏は「文大統領は『建国以来、最高の米韓会談！』と自分で説明してるが、バイデン大統領からは『北朝鮮の意図がわからない限りは金正恩とは会わない。また金正恩が一般国家の首脳と扱われるような行為はしない』と言われるなど北朝鮮問題を動かさず手ぶらで帰ってきた。韓国の新聞には『文大統領は400億\$持参してクレープを食べた』と書かれた」と文大統領の言葉とは裏腹に目的を果たせなかったと韓国メディアも分析していると紹介。

その上で『文大統領は次期大統領選で勝つためにもワクチン確保したかったが確保は出来なかった。中国と北朝鮮を刺激しただけなので文大統領にとっては失敗。だが韓国の国益や国際社会にとっては成功』と語った。

注目のインターネット情報

ダブスタを注意される立憲 小西



鈴木宗男「2分でも遅刻はダメだが、政務官が副大臣の場所を逐一報告するも国会が流会した。一方、15年の小西洋之の3分遅刻を政府は注意しただけで国会を粛々と進行」
小「ギャーギャー」
宗「かつて自分も遅刻しといて人には厳しいは不公平！揚足取りは許されない！」

ダブスタを注意される立憲
#kokkai



2021年5月25日 (外交防衛委員会)